

ICT ニュース 2025/9月号

2025/9/16 発行 ICT/感染管理委員会

厳しい残暑が続いているが皆さん体調はいかがでしょうか？

新型コロナ感染症は注意報レベル、伝染性紅斑は警報レベルが継続しています。

さらに、季節型インフルエンザの発生が始まり、沖縄と青森では流行入りをしました。青森は過去10シーズンで最も早い流行入りです。

他にも溶連菌、百日咳などの感染症も流行していますので、日々の対策をしっかり行いましょう。



●なぜこの時期にインフルエンザが流行入り？

今年の異常な暑さで抵抗力が落ちている、多くの外国人が国内に移動している、エアコンを長時間使用により換気が行われていないことが大きな要因といわれています。

ウイルスは室温がさがり乾燥していると感染力が長時間維持されるからです。

予防対策はもう言わずともわかると思いますが、マスク着用、手洗い、うがいを徹底し、適度な換気をして感染予防をしていきましょう。

●換気とは

室内の汚れた空気を排出し、室外からきれいな空気を取り込んで循環させること。

◇室内の空気を汚す主な原因物質

二酸化炭素、タバコの煙、ノミやダニ、カビ、合成化学物質、ウイルスや細菌、花粉、PM2.5

◇換気の重要性

有害物質や汚れを除去します。

人は生きている間にさまざまな物質を摂取しますが、「空気」は全体の83%であり室内の空気では57%と高い割合であるため、空気をきれいな状態にすることが大切です。

換気が不十分だと感染症だけではなく、二酸化炭素の濃度が濃くなり体が酸素不足になるため、息苦しさ、頭痛、集中力、思考力の低下などにも繋がります。

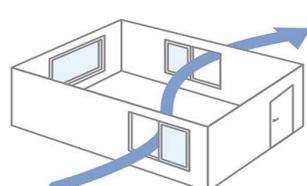
◇効率よい換気方法

換気扇や送風機を使用し、空気の入り口と出口をきちんと開けて対角線上にある窓を開けましょう。

1時間に2回以上、数分間を目安にしましょう。

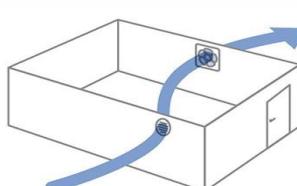
換気の種類

自然換気



部屋の窓やドアを2箇所以上開けて空気の出入口を作る方法

機械換気



空気の出口や入口(または両方)にファンなどの機器を備え、排気や給気を行う方法

エアロゾル感染を防ぐ 換気方法の例

エアロゾル発生が多い区域 エアロゾル発生が少ない区域



エアロゾル発生が多い区域から扇風機などで排気。
反対側から外気を取り入れる。
換気扇がある場合は使用する

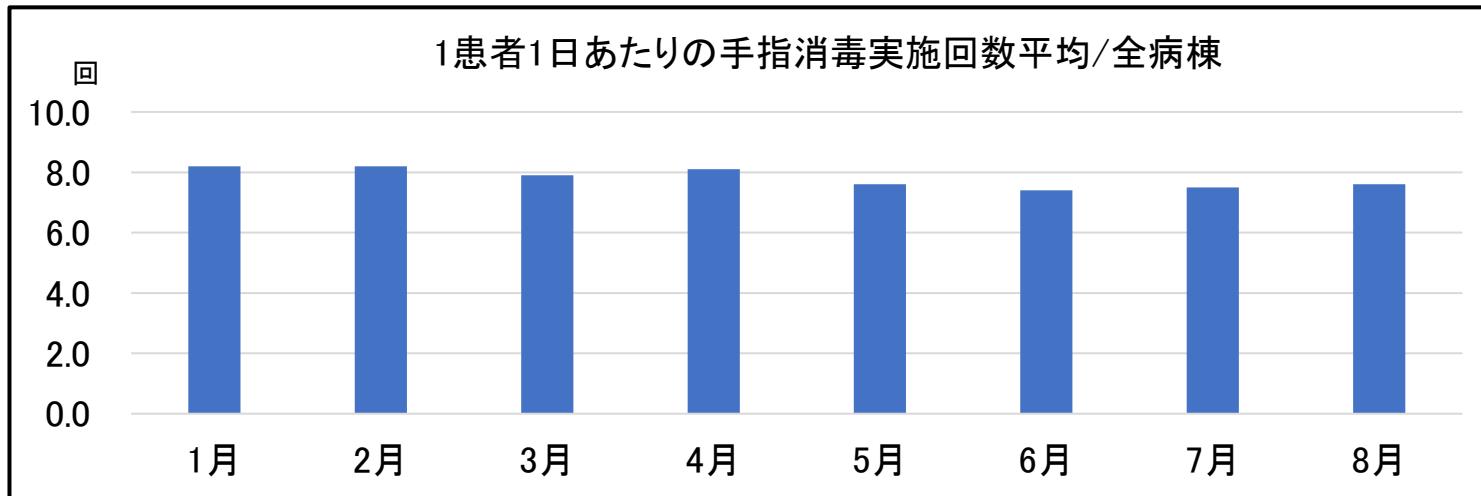
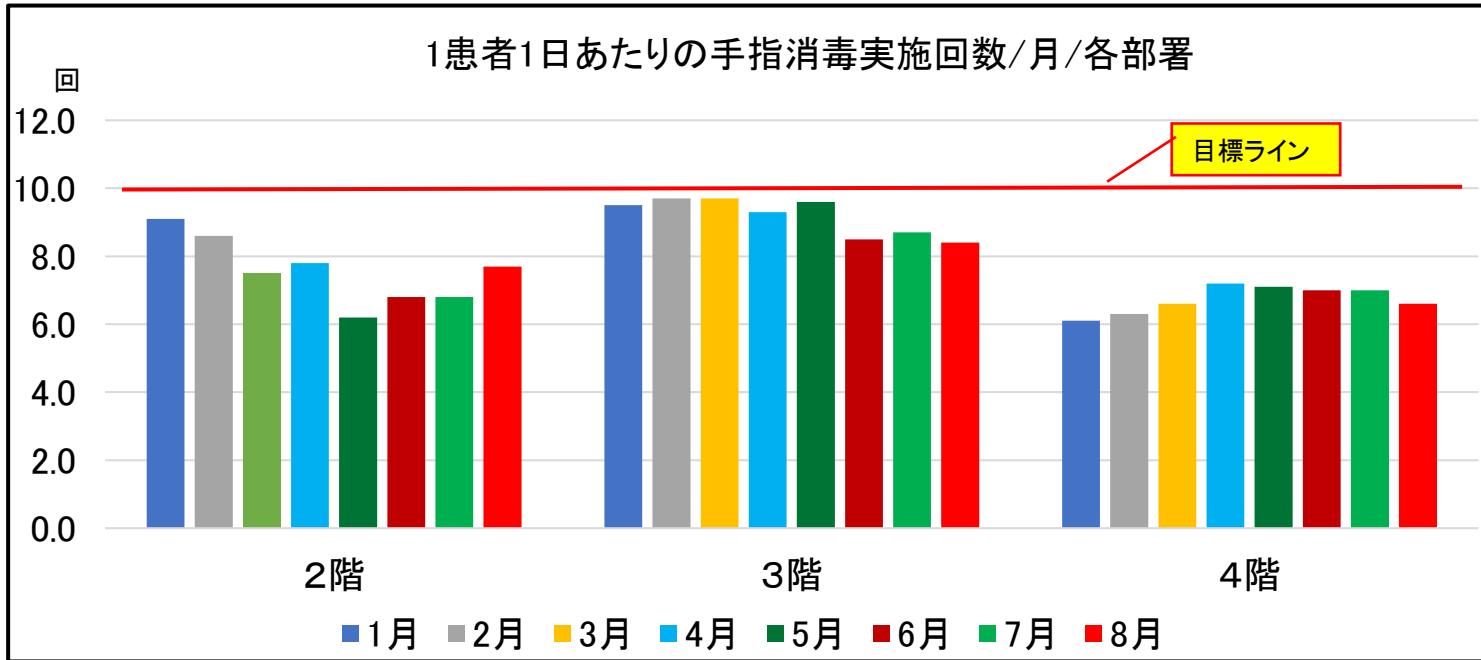
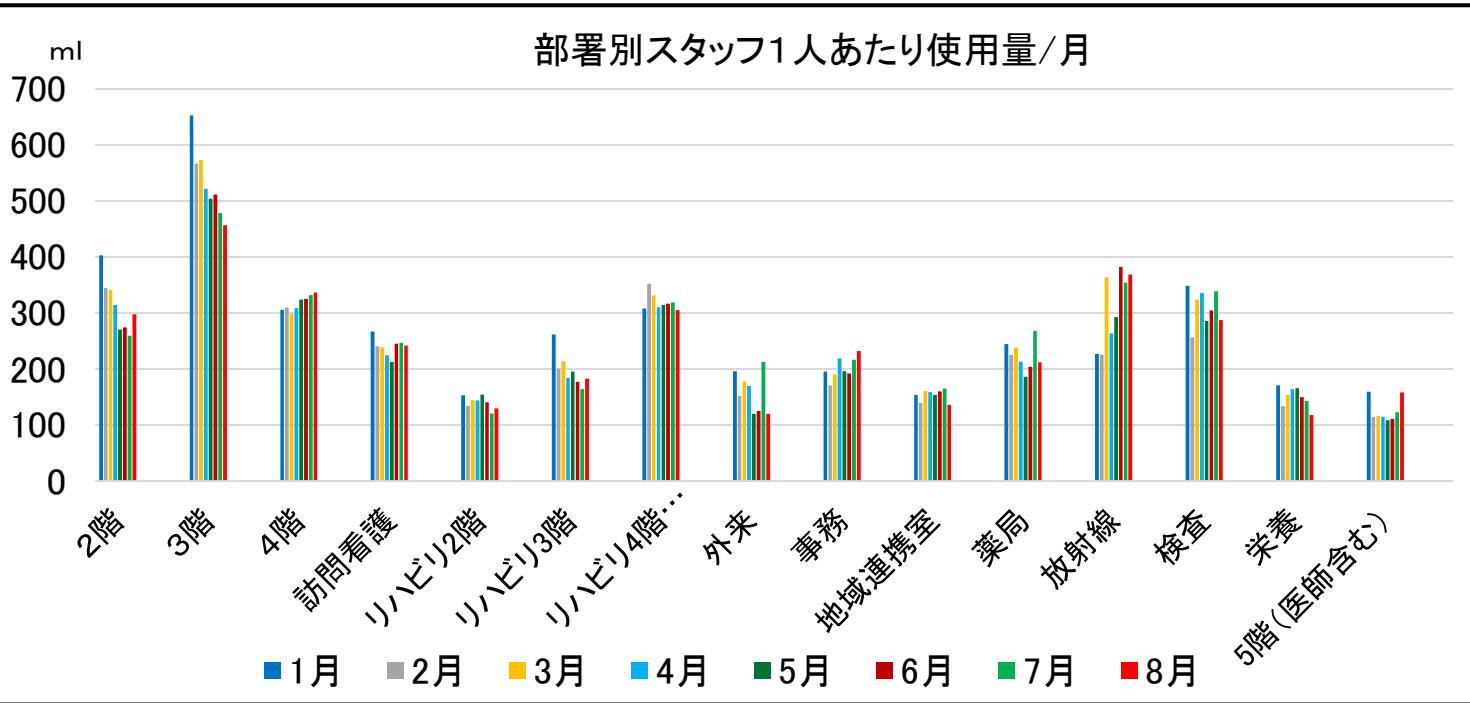
※新型コロナ対策分科会の資料を基に作製

●隔離時に必要な感染グッズの運用について

隔離が必要な感染症が発生したら、PPEラックやクリーンパーテーションを設置しています。

今まででは旧通所浴室に保管されていましたが、検査室奥に移動しました。休日・祭日は施錠されていますので、医事課受付で鍵を借り、貸出簿に記入してから持ち出してください。返却時は使用した物品は補充してからにしましょう！

★2025年アルコール手指消毒剤使用量



★2階病棟が増加しましたが全体使用量はまだ他部署と比較すると少ないです。

他部署も使用量にばらつきがありなかなか増加しません。今後も引き続きタイミング良く手指衛生を心がけてください。